

平成24年度 第2回道産食品独自認証制度運営委員会 議事概要

1. 日 時：平成25年2月19日（火）14:00～16:00

2. 場 所：北海道庁7階 農政部第1 中会議室

3. 出席者：清水委員長、長屋委員、勝浦委員、石川委員、浜館委員、三好委員

4. 概 要

【要旨】

- ・ 北海道から、資料1、1-1、1-2により、平成24年度の主な取組実績について報告した後、意見交換。
- ・ 資料2により、平成25年度の主な取組（案）について説明した後、審議を行い、了承。
- ・ 資料3、3-1、3-2により、制度のあり方の検討について説明した後、審議を行い、了承。

【北海道からの資料説明に対する委員の主な発言】

（平成24年度の主な取組実績について）

- ・ PR活動での試食は消費者との貴重な接点の場なので、毎年実施することが大切である。その際にはアンケートで状況の変化を把握するとよい。

（平成25年度の主な取組（案）について）

- ・ 当制度や認証マークは要綱で規定されているだけなので、条例で定めて普遍的なものとし、拘束力を高めることも検討してはどうか。

（制度のあり方の検討について）

- ・ 認証商品をどのように販売するか、認証マークを付けたときに今以上にどのような効果が生まれるのかが大事である。
- ・ 北海道ブランドの中でも優れた商品なので、ギフトやデパートで販売するのがよい。また、きらりっぴ商品はどこで売っているかを明らかにしてほしい。
- ・ 道民へのアンケート調査は無作為抽出で実施してほしい。消費者協会などは官能検査に参加して制度を知っているので、調査から外した方がよい。
- ・ 最初はトップ商品を認証する考えであったが、一般普及品に認証を与えている。お歳暮やハレの日に使用するものということが伝えられていないから、中核品を出してきて、結果として売れないのではないか。
- ・ 初めはレベルの高い商品を紹介するだけであったが、最近は事業者からの要望で販売支援も行い、徐々に当初の考えからずれてきている。このずれにより、他のブランドとの戦いになり、今の伸び悩みにつながっている気がする。
- ・ 売る店、売る場所を選定し、お客様が商品を選び、食卓にあがるまでをどうプロデュースしていくかが大事だと思う。
- ・ 自分で食べて美味しいし、安心だから送りたいという商品なので、特別な日などに食べるような機会づくりが必要だと思う。

- ・ 認証基準の中で大事なものは専門家による官能検査である。品目により違いはあるが、もう少し高度な評価をすべきであると思う。
- ・ 経済や衛生管理など他部が関わっており、この制度についてどのような役割ができるかを幹部も交えて考えることが必要である。
- ・ 食べる大切フェスティバルは「きらりっぷ」のPRにふさわしいイベントなので、参加していただきたい。